

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

# 三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

## ■コミュニティだより

VOL. 42 (年4回発行)

- 発行日 平成18年9月1日
- 発行 三春まちづくり協会
- 編集 三春まちづくり協会広報部会  
三春町字大町178 (旧公民館内)  
TEL/FAX (62) 3988

## 「滝桜協力金」についての出前懇談会 報告

三春まちづくり協会・広報部会では、3月に引き続き第2回目の「滝桜協力金についての出前懇談会」を開催いたしました。

7月20日、会場の三春交流館小ホールには約40名の町民の皆さまにお集まりいただき、三春町役場と三春町観光協会からも担当の方々においでいただきました。

あらかじめ提出しておいた質問に対して、役場・観光協会が回答するというQ&A形式で懇談会を進め、残りの時間で会場からの質問も受けました。

8月1日発行の「三春わが街・号外」で当日の質問集と役場からの資料を載せましたが、今回は質疑の内容を掲載します。

- (回答者) ○三春町観光協会 渡辺和明常務理事  
村上 弘事務局長  
○三春町役場 影山常光産業建設課長  
吉田 功観光グループ長  
(司会) 広報部会長 永井 久



Q 1. 今回の協力金制度全体を町ではどのように自己評価していますか

A 1. おおむね理解と賛同を得られたと考えている。協力金制度は来年も続けていくが、観光客の皆さまに何度も来ていただけるように、観光協会や地元と一体となって進めていきたい。

Q 2. 町役場や観光協会へは、どのような意見、要望などが寄せられましたか

A 2. 電話、メール、手紙等で質問や意見が寄せられたが、それほど苦情が多かったということはない。なぜ協力金を集めるのか、それをどう使うのかという内容が多かった。旅行会社からはスタート前の問い合わせがあったが、4月に入ってからはあまりなかった。期間中だんだんに理解を得られてきたものと思う。

Q 3. 滝桜関係指定管理業務委託費が、協力金と駐車場使用料の双方から観光協会へ支出されていますが、指定管理業務委託の範囲や委託条件はどのようになっていますか。

A 3. 当初より2800万円の予算で委託し、協力金から1200万円、駐車場使用料から1600万円を支出した。委託条件は観光客受入れのための全般的業務。期間は4/1～5/10。

Q 4. 三春町のホームページでは、2/23に滝桜サポーター事業についての情報が載って以来、6/30に収支状況が発表されるまで、協力金に関する更新が一度もありませんでした。町や観光協会では「全国の滝桜ファン」に向けて、どのような情報提供をしてきたのでしょうか。

A 4. 開花状況は4/6から4/30まで毎日ホームページに載せたが、協力金については情報の更新はなかった。町では今、ホームページのリニューアルに取り組んでいる。

Q 5. 協力金を二重に支払った人、あるいは支払わなかった人はどれくらいいたと把握していますか。観桜バス、循環バスの乗客等で、協力金の存在を知らないままに支払った人はどれくらいいると思われますか。

A 5. 実数は把握していない。説明には車1台につき30秒ほどかかった。ピーク時には1日6000台近くにもなるので、混雑時の説明は難しかった。

Q 6. 4月26日の朝日新聞に、三春町と同時期に協力金を実施することになった奈良県の吉野の桜の記事が出ています。吉野では、地元の自治会、観光協会、県、警察、旅行・バス・タクシー業界を交えて検討したそうですが、三春町の場合は、どのようにして決まったのでしょうか。

A 6. 1月に観光まちづくり連絡会に話し、2月20日に町議会全員協議会に報告、2月23日に報道発表と旅行者等にダイレクトメールを発送した。その後、観光協会理事会に報告し、3月町議会で予算として議決された。その後町と観光協会とで各方面にお知らせをした。

Q 7. これまで滝地区の地元の人たちが、先祖代々滝桜の維持管理にあたってこられたものと思いますが、今後は協力金による町での維持管理が中心になるのでしょうか。滝地区の人たちはどのような話し合いが持たれていますか。

A 7. 地元の長年の取り組みに感謝している。例年、町と観光協会と地元でシーズン前から話し合いをしており、地元の方々との連携は深い。

Q 8. 駐車場運営とバス運行事業それぞれの事業ごとの、収入、支出、剰余(欠損)の状況を、昨年度、一昨年度と比較した数字で示してください。

A 8. 観光協会の仮決算ベースでは、駐車場運営等の指定管理業務の収入が2819万円、支出が2667万円で、約150万円の黒字、バス運行事業が収入831万円、支出950万円で約110万円の赤字で、トータルでは黒字となっている。

Q 9. 協力金(収入)の内訳(大型バス、乗用車、徒歩等)を教えてください。

A 9. 乗用車(500円) 25,281台:1264万円。大型バス(7000円) 709台:496万円。マイクロバス(3000円) 93台:28万円。二輪(300円) 2840台:85万円。徒歩等:15万円。協力金箱:1040万円。観桜バス:60万円。循環バス:43万円。売店等:61万円。

Q 10. 期間中の駐車場係員(警備会社)の人数を教えてください。(昨年との比較)

A 10. 平日32名。ピーク時64名雇用した。4/6～4/26日まで、のべ881名。延長期間(4/27～4/30)122名。合計のべ1003名。昨年度は合計567名。

Q 11. 期間中、役場職員、観光協会職員、ボランティアなど多くの人たちが関わったと思いますが、その人数はどれくらいありましたか。

A 11. 建設業組合、建築大工組合、管工事組合、交通安全協会、ボランティアガイド、消防団などを含めて、のべ700名くらいの方々関わった。

Q 12. 観光客の数は33万人と推定されると発表されていますが、どのようにして計算しているのでしょうか。

A 12. 乗車人数は次のように計算する。普通車:3名。大型バス:40名。マイクロバス:25名。二輪:1名。観桜バス・循環バス:実数。こうして計算した人数の3割が、徒歩・タクシーを利用したり、駐車場時間外(早朝・夜間等)に来たものとして人数を算出している。

Q 13. 今年度は、滝桜の維持管理について町税からの支出は0になりますか。

A 13. 町の直接的な支出は減るが、今後の事業内容にもよるので、現時点で0になるとは言えない。

Q 14. 来年に向けてのプランはどこまで決まっていますか。

A 14. 協力金は基本的には継続するが、内容は検討、改善していく考え。旅行会社などへのお知らせは12月頃を考えている。

Q 15. 5月14日の福島民友新聞で、町長が「町政懇談会や出前講座などあらゆる機会を通じて報告する」と話していますが、どのように実施されていますか。

A 15. 大町活性化打合せ、商工会青年部との意見交換などの席で説明をしてきた。

Q 16. 5月24日に「観光まちづくり連絡会」の意見交換会が行われたそうですが、そこではどのような意見が出されましたか。また「観光まちづくり連絡会」の構成メンバーと今後の開催予定を教えてください。

A 16. 構成メンバーは、商工関係団体、土木事務所、警察署、三春ダム、高速道路、JR、県観光連盟、JTB、県旅館組合、区長、各地区まちづくり協会、飲食店組合、商工会など。年2回程度の開催で、いろいろな意見を出してもらっている。

Q 17. 5月14日の福島民友新聞で、町長が滝桜整備のビジョンの最大の目標として「新たな駐車場整備」をあげていますが、どれくらいの規模の駐車場を考えているのでしょうか。

A 17. 駐車場の確保は渋滞の根本的な解決策であり、まずは現在の原石山駐車場を再整備することで有効活用していきたい。

Q 18. 同じ記事で滝桜観光の問題点について「通過型観光になっていること」を最大の問題点としてあげていますが、「通過型観光」問題の解決策として「協力金制度」を導入したのでしょうか。また、循環バスは応急的対処法とも話されていますが、新たな駐車場を整備し、マイカーで滝桜の近くまで来てもらうことは通過型観光の問題を解決することと結びつくのでしょうか。

A 18. 滞在型観光はそう簡単にはできない。時間がかかっても毎年の取組みを積み重ねていくことが大事。お客様に何度も来てもらえる町をめざす。

Q 19. 滝桜以外にも、町内には多くの人気のある桜(個人所有のものも含めて)がありますが、その維持管理はどうなっていますか。

A 19. 現在は持ち主に維持管理してもらっており、その内容を維持しつつ、町・観光協会・さくらの会など、できる範囲で支援しながら進めていきたい。

# 部会だより

## 街並部会

歴史と伝統を守るまちづくりをめざす活動の一環として、六月七日歴史特別企画「田村大元神社展」を見学する勉強会を行いました。田村大元神社の歴史的な由来、奉納の品々や祭礼の様子、国指定重要美術品の「銅製松喰鶴鏡」をはじめ様々な所蔵物等について、学芸員の説明を受けました。

## 福祉部会

六月二十七日「地域包括支援センター」について、出前懇談会方式による勉強会を開催しました。今年度から、介護保険制度が見直され、高齢者のみならず住みなれた地域で安心して暮らせる環境づくりをめざす介護予防に重点をおいた取り組みがスタートしました。「三春町地域包括支援センター」はこの三春町の地域機関として福祉会館内に設置され、保健師・社会福祉士・主任ケアマネージャーが連携したチーム体制で、業務にあたります。

## 青少年育成部会

岩江と中妻まちづくり協会の地区健康づくり教室の事例紹介がありました。三春地区でも地域包括支援センターと連携し、どのような取り組みができるのか検討していきます。

## 環境部会

七月十五日交流館主催の桜川水質調査に部会員八名が参加し、講師の指導で水質調査や、いろいろな生活排水による水の汚染との関係を調べる実験をしました。当日は、雨の降る中三方所から採水し、温度と色、臭い等を記録、バックテスト(薬品)で汚れ(有機物)を調べた結果、湖沼基準を越えた汚れであると分かりました。



子どもが安心して暮らせるまちづくりをめざす今年度の取り組みとして、七月五日御木沢地域子ども教室の視察研修を実施しました。環境を守ることは自然と自分を守ること、環境を汚すことは人間を含めすべての生物の命を危機にさらす恐れがあるということを知っておく必要があります。中町では字の行事で毎月第一水曜日に地区内と桜川の清掃活動を続けています。荒町八雲会(高齢者)ではゴミや汚れた水が八島川に流れ込まないようにゴミ拾いを実行しています。桜川には生活排水と工業農業排水等も流れ込んでいます。どうすれば川の水がきれいになれるのか、環境部会ではゴミ問題と合わせて考えていきます。

## 編集者の目

### 企画のねらいは 情報の共有化!

「滝桜協助力金」出前懇談会の企画について、なぜまちづくり協会がこのような会を開くのかという意見がありました。まちづくり協会活動に相応しくないのではないかとこの意見ですね。意外とこのような見方をしている人もいます。しかし、これからの自治体は、行政と住民が情報を共有しお互いに理解し合って、まちづくりのためにそれぞれの役割分担に応じて協力して働く協働のカタチが不可欠だと思っています。

### 環境改善は、日常生活の見直しからが原点!

環境を守ることは自然と自分を守ること、環境を汚すことは人間を含めすべての生物の命を危機にさらす恐れがあるということを知っておく必要があります。中町では字の行事で毎月第一水曜日に地区内と桜川の清掃活動を続けています。荒町八雲会(高齢者)ではゴミや汚れた水が八島川に流れ込まないようにゴミ拾いを実行しています。桜川には生活排水と工業農業排水等も流れ込んでいます。どうすれば川の水がきれいになれるのか、環境部会ではゴミ問題と合わせて考えていきます。



「滝桜協助力金」出前懇談会の企画について、なぜまちづくり協会がこのような会を開くのかという意見がありました。まちづくり協会活動に相応しくないのではないかとこの意見ですね。意外とこのような見方をしている人もいます。しかし、これからの自治体は、行政と住民が情報を共有しお互いに理解し合って、まちづくりのためにそれぞれの役割分担に応じて協力して働く協働のカタチが不可欠だと思っています。

必要と言えるでしょう。吉野町をはじめ、観光資源に対する維持協助力金については全国的にも例があります。なぜこれ程大きな反響となったのでしょうか。やはり、それだけ三春の滝桜の存在が大きいことと、取り扱いは変化が大きかったことが挙げられると思います。三月の出前懇談会では、準備態勢は万全ということでしたが、その点はどうだったのでしょうか。町の説明では大きな混乱もなく、概ね良好で観光客にも賛同を得られたとされています。勿論、個別のケースまで詳細に集約は出来ていないでしょうが、来年度以降の取り組みのために様々な角度から分析を重ね、より良い観光事業を進める必要があると思っています。

数字的なデータを含め細かい質問事項もありましたが、そのためには、情報を理解しやすく提供する工夫と、情報の受け手側の理解するための努力も必要です。そこで、行政の仲立ちをする情報の共有化の試みとなった訳ですね。はい。町民の目線のみで疑問や感じた点を出し、関係担当側の説明を受けながら理解を深めることで情報の共有ができるかと考えたからです。

「滝桜協助力金」については、町民、マスコミ、インターネット等、町内外で話題になりました。賛否両論いろいろな意見がありましたね。しかし、最終的には三春の町民が評価をし、結果の責任を持つことになり。そのために、正確な情報による適正な判断が

必要とされるでしょう。吉野町をはじめ、観光資源に対する維持協助力金については全国的にも例があります。なぜこれ程大きな反響となったのでしょうか。やはり、それだけ三春の滝桜の存在が大きいことと、取り扱いは変化が大きかったことが挙げられると思います。三月の出前懇談会では、準備態勢は万全ということでしたが、その点はどうだったのでしょうか。町の説明では大きな混乱もなく、概ね良好で観光客にも賛同を得られたとされています。勿論、個別のケースまで詳細に集約は出来ていないでしょうが、来年度以降の取り組みのために様々な角度から分析を重ね、より良い観光事業を進める必要があると思っています。

## 編集後記

定管理業務委託」と言う言葉を最近よく見聞きしますが、私たち町民にはなかなか分かりにくいのですが。そうですね。近年、自治体の多くは事務事業の効率化による歳出削減をめざし、業務の外部委託を取り入れるようになりましてからね。このことについても、町民のみなさんが分かりやすい形で情報公開されるよう、議員さんに専門的に取り組んでもらえるといいですね。

### 住民自治は 自己決定・自己責任!

そうなる、私たち町民も理解する努力も必要でしょう。滝桜協助力金に限らずこのような企画を続けることになりませんか。先にも述べた通り、これからは住民自治の名のもとに行政と住民の協働による自治体運営が進められます。このことは、自己決定・自己責任の原則に立つた地方分権の推進を背景としています。今までのように、マイナスマは地方交付税の交付金で穴埋めできると言う条件は厳しくなってきた、自己責任という形で町民にかぶさってきますから、一人ひとりが自分の事として積極的に考えていく必要があるでしょう。

### 最終評価は、町民の一人ひとりが!

その点からも、情報共有の重要性があるということですね。町民のみなさんが資料やデータを基に、行政や議会の話を正しく理解し、自分自身の考えで判断したり、評価したりできる条件づくりをするのがまちづくり協会の役割だと思っています。

判断は様々な角度から適切に! 三〇九〇万円の協助力金が集まったことで、成果があったと評価する見方もありますが、協助力金というものは税金とどう違うのか、歳出との関係がどうなるのか、詳細な評価作業は、これから議員さんによって議会で進められると思います。

▽例年になく長い梅雨が明け、猛暑の中、今年もまたお盆を迎えました。先祖様のお墓参りに帰省した人達や三春の人達が、やぐら太鼓や笛の音に合わせて、子供達も大人も無心になって「サイヤーわたしや三春町、五萬石育ち」と楽しんで踊る姿が、とても印象に残りました。▽歴史ある三春盆踊り、風土に合わせた笛太鼓の音、踊りのリズム、これらをいつまでも大切に後世に引き継がれていかなければと思います。その為、ある方のご意見がちょっと参考になるので一言「踊りの輪がもう少しきちんとなり、また踊る時間ももう少し長く続けて、最後のすばらしい太鼓打ちまで見てもらえたら、もっともつと良い盆踊りになるのでは」とのこと▽伝統ある三春盆踊りはすばらしいと、近隣町村の方達が太鼓見物に来て、踊っていたとき賑やかに楽しんでいたと思います。また、三春を離れて暮らしている人達が毎年お盆に帰るのを、楽しみに「三春っていいな、古里っていいな」と思っているから、元気に過ごしていただきたいと願っています。(庭山)

コミュニティだより 「三春わが街」第四十二号 発行日 平成十八年九月一日 発行 三春まちづくり協会 編集 三春まちづくり協会 広報部 会 三春町字大町一七八 (六二)三九八八